



←「まとい」は長島町役場1階ロビーに展示しています

最高栄誉章「まとい」受章

日本全国のかがみに

長島町消防団(諏訪義則団長)が日本消防協会(秋本敏文会長)最高栄誉章である「まとい」を受章し、4月26日、町開発総合センターで受章記念式典が開催されました。

式典には、川添健町長をはじめ諏訪団長や消防団OBなど消防関係者のほか現役の団員ら合わせて約150人が出席しました。式の前に、東京都内であった表彰式の様子が上映された後、消防団本部の門元則文部長が「まとい」を持って入場し、拍手で迎えられました。

式では、川添健町長が「消防団の積極的な活動により、ここ数年本町では甚大な被害を及ぼす災害や火災は発生していません。町民と一体となった積極的な活動と、団員を支える家族に感謝したい」と式辞を述べました。

団長謝辞では、諏訪団長が「今後も慢心することなく、受章に恥じない活動を続け、知識・技術の習熟に尽力し、引き継いできた伝統を継承していきたい。地域から一層信頼される消防団を目指します」と受章の喜びを話しました。

式の後、祝賀会が行われ出席者全員で受章を祝いました。

町民一体の活動が認められる

「まとい」とは、全国の消防団2200余りの中から、顕著な活躍のあった10の消防団に授与される最高栄誉章です。これを受章した消防団は全国の消防団の見本となる最も優れた消防団となります。

長島町消防団は県内で8番目の受章となりました。2月に東京都内で開催された第66回日本消防協会定例表彰式に、諏訪団長と町口孝治副団長が出席し「まとい」を受章しました。

「まとい」を受章するには、消防庁長官表彰旗、日本消防協会会長表彰旗を受章し、かつ、災害時での活躍や全国消防操法大会への出場といった優れた活動が認められた場合に授与されます。

長島町消防団は、全国消防操法大会への出場は無いものの、行政や地域と一体となった火災予防や減災活動が認められ受章に至りました。

脈々と受け継がれる伝統

名実ともに最高の消防団となった長島町消防団ですが、所属する団員は、我が身を顧みず災害や火災に立ち向かいます。その伝統は歴代団員に脈々と受け継がれています。